

世界遺産アカデミー認定講師 File No.24

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当て、お話を伺います。第24回の今回は、声優からアナウンサー、司会業まで声の仕事でご活躍されている、山口みのりさんです。

——身近に感じられる 宗教の存在

私の実家は曹洞宗のお寺で、僧侶の祖父の影響もあり、小さい頃から寺社巡りが好きでした。寺社だけでなく西洋建築と宗教全般に興味があり、世界遺産を意識してからはよりいっそう関心が強まりました。私は声の仕事に携わっているのですが、いつか世界遺産に関する番組のナレーターをしてみたいです。以前、所属事務所のマネージャーに相談してみたところ、そのようなナレーションを担当するためには経験と実績が必要だと言われました。そこで見つけたのが、世界遺産検定。専門学校卒でコンプレックスもあったので、将来への裏づけが欲しかったのです。2級、1級と連続合格を目指し、自分自身のキャリアのた

めとって始めた勉強が、世界遺産の枠を越えて、政治経済や歴史、紛争問題の知識も深まりました。その一方で、世界遺産の理解を掘り下げていくほど、一般的な宗教観と実家の宗教様式との整合性が取れなくなってきました。曹洞宗は規律に厳格な宗派として知られていますが、実家のお寺は柔軟で、他の宗派の様式も寛容しています。神仏習合や民間信仰の形、そういった宗教の違いは、世界遺産の勉強を通じて、より身近に感じるようになりました。

5年ほど前のインド旅行では、同行した友人がカトリックで、良い意味で宗教の混在した旅となりました。夜行列車のコンパートメントで位の高いヒンドゥー教僧侶の方と相席となった時は、キリスト教と仏教、ヒンドゥー



一番行きたい世界遺産だったシーギリヤ

教とお互いを自己紹介し合っ、宗教の話となりました。ガンジス川では、人々が身体を洗い、洗濯物をすすぎ、野菜の泥を落とし、遺灰も流されます。すべてを受け容れて淡々と生活している日常がここに在るのだと、心

から感動しました。この旅行は2週間で、インドの前に、バングラデシュにも足を運びました。実はこれが私にとって初めてのアジア圏への旅行で、その最初の到達地が、人口密度世界第8位（当時）のイスラム教国バングラデシュ。とても衝撃的でした。ちょうどラマダーンの時期と重なっていたため、街中ピリピリした緊張感が漂っていました。バングラデシュは緩やかなイスラム教国ですが、街中で見かけるのは男性ばかり。現地ガイドも男性でした。インドではカルカッタからデリーに向かい、デリーで1泊。経路地で飛行機が遅れ、深夜近くの到着。事前予約した宿は別予約で埋め合わせされている可能性が高いので、観光案内所で別宿を探すことにしました。道中、「空き部屋あるよ」としてこく客引きが群がってきて、英語では追いつかな

いので日本語で「邪魔！」と一括。必死で追い払いました（苦笑）。なんとか宿に辿り着き、翌朝はフマユーン廟を訪れました。その後、アグラ城とタージ・マハルに向かい、さらにサルナートまで足を伸ばしました。アグラ城からタージ・マハルを臨んだ父シャー・ジャハーンの心境の追体験は忘れられません。インドの後にはスリランカも周遊し、順番的にはバングラデシュ→インド→スリランカ→中国→日本でしたので、文明がだんだん発展していく流れを体感できました。そして、トラブルに遭っても何とかなる！と考えるようになってきました。

——寄り道することの大切さ

学生や初めて学ぶ方々のために、世界遺産ひいては世界遺産検定に興味を持ってもら

う、初歩的な導入ガイダンスを担当することが多いです。高校生は、まだ社会的経験も浅いこともあって、検定が将来どう役立つのか、ふんわりとした質問内容が主です。一方で、東京交通短期大学の学生は、就職活動を目前としているせいか、世界遺産検定取得への関心が高く、とても真剣に聴いてくれました。短大生は限られた2年間で就職に繋げられる能力を少しでも身に付けなければなりません。1回で合格する！という意気込みが違います。東京交通短期大学には鉄道会社志望の男子学生たちが多いのですが、鉄道業界も旅行業や観光業と密接です。とても熱心です。教える側にも熱が入りました。ツイッターもフォローした方がいいよ！とか（微笑）。私は以前、声優としても活動していたので、そのことを自己紹介してみたら、予想

以上に食いつきが良くて、授業のスタートから盛り上がりました（笑）。また、亜細亜大学では、担当の先生が積極的に検定学習に取り組んでいらっしゃいますが、学生たちで実際に受検するのは3分の1。とはいっても、世界遺産クイズを投げるときちゃんと応えてくれますし、去年受検したけれど認定されなかった学生たちは意欲も強く、素直な生徒たちだと感じられました。学生たちとの掛け合いがうまくいかないと、当初の予定時間よりも早くに終了してしまうこともあります（苦笑）。毎回ザックリとした自分なりの時間配分は決めていて、その都度、調整しているのですが、世界遺産だけでなく国際情勢や時事問題などの知識や自分の経験的引き出しをもっと蓄えて、次に繋がれるようにしたいです。殆ど

の学生に海外の世界遺産経験があるようで、モン・サン・ミッシェルや万里の長城、グランドキャニオン国立公園、マチュ・ピチュといった、メディアで特集されやすい場所は、やはり人気が高いです。単位を取るためだけの学生と比べて、実際に受検するつもりでの学生の質問は、より具体的です。

学生さんたちにとって何が一番心に響くのかを考えると、世界平和にしても貧困問題にしても遠い国の出来事ではなく、自分自身の身近な出来事として捉えてもらうこと、つまり、世界遺産を近くに感じてもらうことだと思います。他の認定講師の方々の知識や経験には到底適いませんが、私の認定講師としての自負は、学生さんたちとの距離感がさほどない、親しみ易さ。さらっと生きていくの



トップミナールにて現地の方々協力してもらって三日月のポーズ

も良いけれど、ちょっと寄り道してみるのも良いよと伝えていたら、と思っています。